

愛知県食の安全・安心推進協議会令和2年度第1回会議 意見・感想等

協議事項	意見・感想等
協議事項1	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度計画の評価が出ていて安心。 ・各目標や事業が進捗し、今後もアクションプランに基づき適切に実行される事を望む。 ・畜産物の生産と家畜疾病の監視も大切にされていて、お疲れ様です。 ・学校の食の指導の充実も、新型コロナウイルス感染症の影響で活動をされたのだと思われる。 ・(アクション2) 豚コレラ → 豚熱 ・COVID-19対策において、本アクションプランはどのような立場をとっていたのか。感染症は対象外？消費者ニーズに対応しきれていたのか？本アクションプランの存在意義をCOVID-19は問うているような気がする。
協議事項2	<ul style="list-style-type: none"> ・【承認しないに<input checked="" type="checkbox"/>あり】 <p>「食の安全・安心に関わる重大な事件が発生した場合、適宜会議を追加で開催し、協議会委員の意見を伺う」とある。新型コロナウイルスは重大であると認識があるが、(今年は)一度も会議が開催されていない。毎月開催されていても良いくらい食の安全・安心に関わる重大の事件であり、非常事態だと思う。</p> <p>→ ※今年度中に開催する予定であれば「承認する」にしてもらって良いと連絡あり</p> <div style="border: 1px dashed red; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【事務局】 新型コロナウイルス感染症の状況次第ではあるが、時期を見て開催したいと考えている。御意見も踏まえ「条件付きで承認」とさせていただいた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回は承認するが、臨時の会議の必要性も高まっていると感じる。
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、食品についてもさまざまな情報(中には根拠が十分でないものもあったように…)が流布した。県民がきちんとした情報を得られるようにすることが不可欠と改めて感じた。 ・新型コロナウイルスの件、今まで生きてきた中で、一番大きな非常事態が発生していると認識している。 <p>まわりの方々も、食品衛生について、手洗い、マスク、アルコール消毒、喚気、様々な対策の見直しや徹底を図って、念には念を入れて行動してきたと思う。県民についても、新しい生活様式を大部分の方々は実践していると思う。</p> <p>想定を超越した事態が2次・3次と発生する可能性を否定できない中でのあいち食の安全・安心推進アクションプランであり、県職員の方々も大変と思う。私はこのピンチをチャンスと考え、ますますの食品衛生向上につなげ、改善・工夫・研究を進めている。</p> <p>今、食育等イベントは中止、研修や集会も難しい中、リモート化が進んでいる。県会議も、市役所の特定のパソコンとつなぎ(自治センターまで行かなくても市の担当者が年配の方、障害者、子供、パソコンを使えない方等のサポートしながら実施)を検討すべきと思う。</p> <p>なお、公募委員についての任期は2年だが、非常事態のため、1年延期すべきと思う。</p>

その他（2020 年度計画について）

	意見・感想等
2020 年度計画について	<p>・ <u>アクション 13</u></p> <p>809 件という数字の意味・根拠は？ ① ※</p> <p>サプリメントや健康食品が生活に近くなり、常用する人も多い。健康に直結する問題だけに厳密な対応を期待する。</p> <p>機能性食品など、正規でも多様な表示がある。『紛らわしい表示はダメ』を徹底させるとともに、健康食品で病気は治らないなどの基本情報の周知を図る必要もある。</p> <p>・ <u>アクション 2</u></p> <p>2019 年は CSF により増加で、特例。</p> <p>目標値は、10 件以下のままでいいのではないかと？ ② ※</p> <p>・ <u>アクション 6</u></p> <p>ウナギ、アユ、マス『等』・・・反映して下さってありがとうございます。</p> <p>・ <u>アクション 8</u></p> <p>食品流通の安全確保・・・通常でないルートが増えている。</p> <p>例えば、フードバンク、子ども食堂にわか弁当屋、料理宅配サービス（ウーバーイーツ等）新しい形態に対応する目標も必要になってくるのではないかと。</p> <p>長期保存する可能性をも考え、お店で提供するとは違った食の安全確保が必要。</p> <p>コロナ禍であっても、食の安全確保は重要。（体調の悪い時、食中毒か感染症かわからないというリスクが重なる）</p> <p>・ <u>アクション 20</u></p> <p>リスコミに関わる身として、95%以上は少しきつい。参加者 20 人のうち 1 人でも反対が出ると、達成できなくなる。必ず反対意見を書き続ける一群も存在する。</p>

※ ①及び②について、次ページに担当課回答を添付

【質問・回答】

① アクション13 医薬品成分を含む健康食品などの流通防止

	2020年度計画	2019年度計画	修正等の理由	担当課
目標	医薬品成分を含む健康食品による健康被害発生件数 0件	医薬品成分を含む健康食品による健康被害発生件数 0件		医薬 安全課
事業の 内容	医薬品的効能効果を標ぼうする健康食品の監視指導 809件	医薬品的効能効果を標ぼうする健康食品の監視指導 15件	監視対象の見直し	
	医薬品成分を含む健康食品の買い上げ検査 12検体	医薬品成分を含む健康食品の買い上げ検査 12検体		

【質問事項】

809件という数字の意味・根拠は？

サプリメントや健康食品が生活に近くなり、常用する人も多い。健康に直結する問題だけに厳密な対応を期待する。

機能性食品など、正規でも多様な表示がある。『紛らわしい表示はダメ』を徹底させるとともに、健康食品で病気は治らないなどの基本情報の周知を図る必要もある。

【回答】

薬局及び店舗販売業の監視項目の一つとして、健康食品等の広告監視を実施しており、当該施設への立入検査は平成30年度末時点の本県所管施設数（2,428施設）の1/3（809件）を計画している。以上により算出した件数を本事業の計画件数とした。

【質問・回答】

② アクション2 安全な畜産物の生産と家畜疾病の監視

	2020 年度計画	2019 年度計画	修正等の理由	担当課
目標	家畜伝染病発生件数 過去 5 年間の発生件数の平均値 (14 件) 以下 0 件	家畜伝染病発生件数 過去 5 年間の発生件数の平均値 以下 10 件以下 0 件	平均値の変動による (平均値は 2019.12 未現在の 暫定値)	畜産課
	畜産農家の飼養衛生管理について 立入検査の実施 検査実績/検査計画 =100%の達成	畜産農家の飼養衛生管理について 立入検査の実施 検査実績/検査計画 =100%の達成		
	養鶏農家におけるサルモネラ汚染 防止対策技術(鶏卵のサルモネラ総 合対策指針)の普及	養鶏農家におけるサルモネラ汚染 防止対策技術(鶏卵のサルモネラ総 合対策指針)の普及		
	BSE検査頭数/ 96 か月齢以上の死亡牛発生頭数 =100%	BSE検査頭数/ 96 か月齢以上の死亡牛発生頭数 =100%		
	養鶏農家などでの定期的な鳥イン フルエンザ検査 対象 9 戸	養鶏農家などでの定期的な鳥イン フルエンザ検査 対象 9 戸		
	毎月 1 回延べ 1,080 検体	毎月 1 回延べ 1,080 検体		
	鳥インフルエンザ監視検査	鳥インフルエンザ監視検査		

【質問事項】

2019 年は CSF により増加で、特例。目標値は、10 件以下のままでいいのではないかと?

【回答】

豚へは CSF ワクチンを接種しているが、豚はワクチンによる免疫を獲得する前に感染すると、CSF が発生する可能性がある。現在、野生いのししでは CSF が浸潤している状況であり、今後も発生する可能性が否定できないことから、CSF 発生件数を踏まえた目標としたい。